

第39号
2019年8月

高梁市議会だより



6月定例会
特集「議会報告会」

第11回議会報告会

4月16日から25日まで、第11回議会報告会を開催しました。今回は、玉川や成羽、落合地域など、被害が大きかった地域を中心に市内8カ所の会場で148人の方に参加していただきました。意見交換会では「今後の地域防災について」をテーマに、平成30年7月豪雨災害を受けての意見を伺いました。



第11回議会報告会を開催しました

今回の議会報告会では、3月定例会の報告をするともに、平成30年豪雨災害を受けて、今後の防災対策について話し合いました。「しっかりとした堤防を造ってほしい」という意見や「河川のしゅんせつを進めるべき」といった意見に加えて、ダムの管理や防災ラジオ、避難所や自主防災組織などについてのご意見をいただきました。

空き家対策・定住対策、少子高齢化に対する不安の声もありました。いただいた意見は議会広報公聴特別委員会に取りまとめた上で、それぞれの担当委員会に振り分け、そこで対応策を話し合いました。

いただいたご意見・ご提言は、高梁市議会の公式ホームページでも公開しています。



議会報告会が変わります

第11回まで開催した議会報告会ですが、参加者の状況とアンケート結果を見ると、女性や現役世代、学生の参加が少なく、地域によって参加人数に格差が生じているのが現状です。

そのため、地域を回って意見交換を行う現状の形に加えて、新たに市内の様々な団体やグループ、町内会など、これまでとは違う年代や性別の方を対象とした形での開催を検討しています。

今後も高梁市議会では、多くの市民の皆様からの様々な意見を市政に反映していくために、活動を行っていきま



これまでの議会報告会

第1回と第2回の議会報告会は各地域局を中心に開催されましたが、居住地から近い会場の方が参加しやすいのではということから、第3回より中学校区を基準に市内8カ所での開催となりました。昼間にも開催しましたが、参加が低調であったため現在は夜のみの開催となっています。

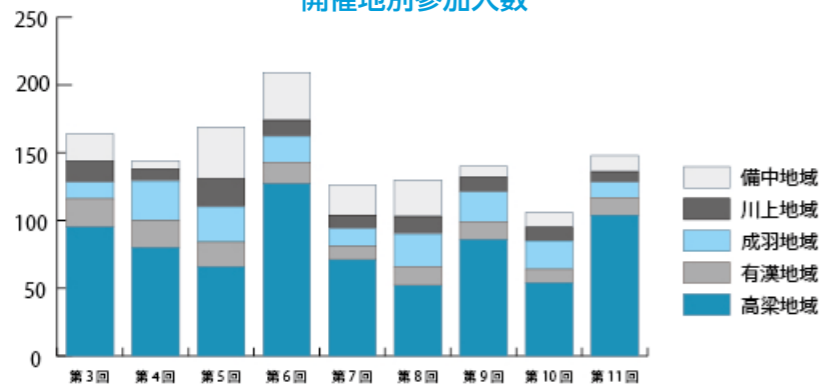
テーマは毎回、議会の特別委員会で決定しています。当初は高梁市全体の問題をテーマにしましたが、第4回では地域ごとにテーマを変えました。その後も地域の問題や未来を考えるとようなテーマを選んでいきます。

開催会場ごとの参加者では、高梁地域での参加が多いですが、これは会場の数が4カ所の合算となっており、有漢、成羽、川上、備中地域は各1カ所となっているためです。第7回以降は参加者が減少傾向にあります。

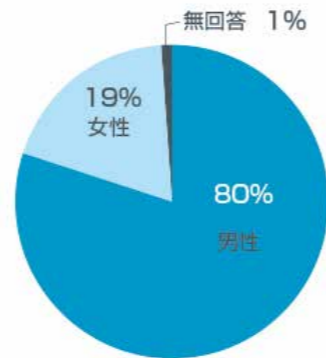
第11回議会報告会では、参加人数の約8割が男性、50歳から59歳が22%、60歳以上が58%とかなり参加者の年齢や性別に偏りがあるため、現在参加していない方々の参加をどう増やしていくかが課題となっています。

回数	日程	参加人数(延べ)	会場数	テーマ
第1回	平成25年4月22日～26日	108人	5	駅前周辺整備について
第2回	平成25年11月11日～17日	100人	6	「朝霧温泉ゆ・ら・ら」[備中高梁駅及び駅周辺整備]について
第3回	平成26年4月21日～25日	164人	8	過疎を考える
第4回	平成26年10月20日・21日	144人	8	地域別テーマ
第5回	平成27年4月22日・23日	169人	8	住みなれた地域で楽しく暮らしていくために
第6回	平成27年11月2日～5日	209人	8	地域のまちづくりを語ろう
第7回	平成28年4月19日・20日	126人	8	高梁と言えば「○○○」である
第8回	平成29年4月18日～27日	130人	8	町内会支援制度/日常生活支援総合事業
第9回	平成29年11月7日～14日	140人	8	地域のまちづくりについて
第10回	平成30年4月18日～5月1日	106人	8	明日のまちづくり～高梁市行財政改革～
第11回	平成31年4月16日～25日	148人	8	今後の地域防災について

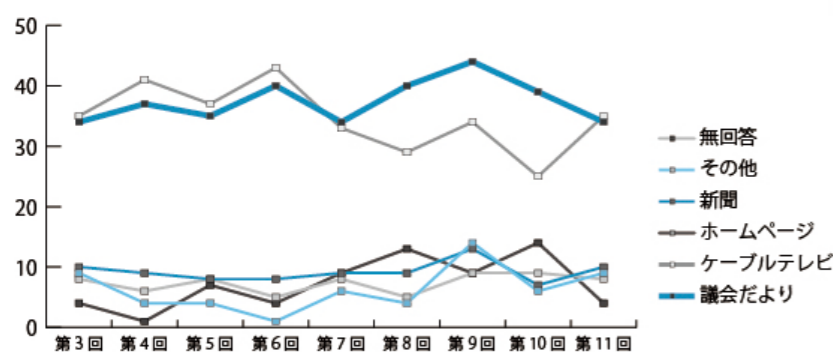
開催地別参加人数



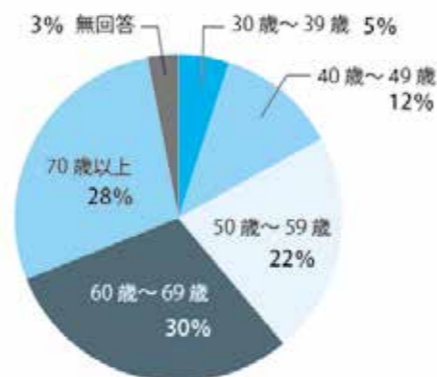
第11回参加者の性別



議会情報を何で知るか



第11回参加者の年齢層





6月定例会を開催しました

5月31日から6月21日まで令和元年第2回高梁市議会定例会が開催されました。今定例会では市長提出の報告3件と議案18件が審議され、いずれも原案どおり承認・可決されました。

消費税率引き上げに伴う関連条例の改正

今議会では本年10月からの消費税率改定に伴い、上下水道料金等の使用料や手数料を引き上げる条例改正案が提出されました。これに対して、そもそも消費税増税は大企業優遇の政策であり、低所得者層ほど負担が重くなることから反対するとの意見が出され、議論がなされました。

入館料の引き上げなど

高梁市郷土資料館と備中松山城の入場料を引き上げる条例案が提案されました。消費税改正の便乗値上げであるとして反対する意見が出されましたが、入館料等の見直しは行財政改革の一環として取り組んでおり、将来の改修費も見込んだ上で算出したものであるとの説明がありました。また、旧備中中学校のグラウンドを地元企業に売却するための財産の処分に関する議案

一般会計補正予算

避難所となる成羽長寿園・こども園に、国の補助金を活用して災害時の電源確保のための太陽光発電設備を設置する予算や、豪雨災害で被災した落合町市場町内会集会所の整備補助金、災害時に使用する発電機などの消防備品の購入費、看護師等養成奨学金貸付金の増額、高梁国際ホテルの空調設備点検整備委託料などが計上されました。

議員提出議案

「新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について」と「高梁市議会基本条例の一部を改正する条例」が議員から提出され、いずれも原案どおり可決されました。

討論 (石部誠議員)

今議会には消費税関連の議案が多数提案されている。上下水道関係の事業は市民生活に直結した事業であり、消費税導入による引き上げを機会に水道料金の見直しが必要ならば、財源投入を行って引き下げるべきである。

郷土資料館や備中松山城の入館料の見直しは年次的に行うべきで、新たな利用者へのサービス提供を合わせて行うべきである。共通入館料については今後検討するという中途半端な議案が提案されるのが問題であり反対する。

また地域集会所整備補助金については、町内会活動の拠点である集会所が被災したため、その復旧の予算であるので反対はしないが、義援金に頼るやり方には問題がある。

会派制を導入します

今議会では、高梁市議会に会派制を導入するため、高梁市議会基本条例が改正されました。

会派制の導入について、これまで議会運営委員会や全員協議会で継続的に審議が行われてきました。会派制を導入すれば会派の中で調査、研究、政策立案な

どの研鑽が進み、各議員の資質が向上するのではないか、あるいは、市議会の運営についても良い影響をもたらすとの理由で導入に前向きな意見がありました。他方、会派制を導入した後

の議会運営方法について十分な議論がなされていないという意見もありました。

採決では賛否が分かれる結果となりましたが、賛成多数で可決されました。今後高梁市議会では、2名以上で会派を結成することができ、代表質問は当面の間実施せず、代表者会議は必要に応じて開催されます。会派控え室などは設けません。

「新たな過疎対策法の制定に関する意見書」を採択しました

本市のような過疎地域は国土の過半を占めています。豊かな自然や歴史、文化を育んできた地域であるとともに、都市に対する食料、水、エネルギーの供給、地球温暖化防止など多面的、公共的機能を有しています。国はこれまで過疎対

策法により総合的な過疎対策を行ってきましたが、依然として多くの集落が消滅の危機に瀕し、森林荒廃や河川氾濫など極めて深刻な状況に直面しています。

この法律は、令和3年3月に失効することから、高梁市議会は、引き続き総合

的な過疎対策の充実強化を求めて、新たな過疎対策法の制定を国に対して求めていくことを決めました。

6月定例会で賛否が分かれた議案の議決結果

○：賛成 ●：反対 欠：欠席

件名	伊藤	森	平松	森上	三村	黒川	石田	石部	石井	内田	宮田好	森田	倉野	川上修	宮田公	川上博	大月
高梁市川上畑地かんがい施設条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市公共下水道条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市特定地域生活排水処理浄化槽条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市給水条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市下長谷地区給水条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市病院・診療所使用料及び手数料条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市民俗資料館等条例の一部を改正する条例	○	○	●	●	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市松山城等管理条例の一部を改正する条例	○	○	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
高梁市議会基本条例の一部を改正する条例	●	●	●	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○

※議長は採決に加わりません。
◎他の議案は全会一致で可決しました。



市民生活委員会

日時 令和元年5月8・9日
場所 島根県益田市・浜田市

地域医療と空き家対策について視察しました

益田市では、医師負担や市民の不安の解消のための「地域医療に対する取り組み」を視察しました。益田市では、地域医療の確保と充実のために「益田市地域医療推進条例」が制定されており、市が病院・医師会などの医療関係者や市民団体と連携し、意見交換会や、実習生などの人材育成を行っています。

また「シングルペアレント（母子家庭・父子家庭）」対策も調査しました。増加している母子家庭の半数以上が非正規雇用であり、地域で不足している介護人材の確保のため「シングルペアレント支援」を行っています。他市からの移住定住と併せて、研修や就労による個々のキャリアアップも目的としています。今後は介護関係の職種も検討しているそうです。

また「空き家バンク」の利用は、市内での移住も認め、不動産業者が介在することで契約上のトラブルを回避できるようになっています。



益田市での研修の様子



浜田市での研修の様子

また「シングルペアレント（母子家庭・父子家庭）」対策も調査しました。増加している母子家庭の半数以上が非正規雇用であり、地域で不足している介護人材の確保のため「シングルペアレント支援」を行っています。他市からの移住定住と併せて、研修や就労による個々のキャリアアップも目的としています。今後は介護関係の職種も検討しているそうです。



産業経済委員会

日時 令和元年5月13日

平成30年豪雨で被害にあった上下水道施設を確認しました

平成30年7月豪雨から約1年が経過し、今年の出水期を控え、昨年の各上下水道施設の被災状況の説明を受けるとともに、対応状況について現地において質疑応答が行われました。

上水道・簡易水道関係では、阿部地域の上水道第3水源池、川面地域の川面巨瀬簡易水道川面第2水源池、下水道関係では、高梁浄化センター、高梁雨水ポンプ場を視察しました。

委員からは、昨年の断水が長期にわたり、市民生活に多大な影響があったことを踏まえ、各施設の復旧状況の確認と、特に浸水対策を中心とした質疑応答が行われました。



阿部地域にある上水道第3水源池



川面巨瀬簡易水道川面第2水源池

高梁市の動物愛護の基本方針を問う

答弁：動物愛護の法律の事務の多くは主として都道府県にあり、市としては必要な協力を行う

森上 昌生 議員

ここを
ぎきました

- 動物愛護について
- 高梁市の観光戦略について

地域猫対策になぜ積極的に取り組まないのか

森上 環境省の指針にもある地域猫活動に、市はなぜ積極的に取り組まないのか。

市民生活部長 動物愛護センターと連携して啓発活動を行っている。県の支援の施策を活用してほしい。

森上 市民の理解を得るため、市に仲介者としての役割を求める。

市民生活部長 市民の理解のためにも啓発活動は必要だ。愛護活動には敬意を表すが、さらに活動を高めて欲しい。

池上邸の取扱いについて

森上 池上邸の今後の取扱いについて、市はどう考えているのか。

産業経済部長 現状では市が購入することは困難だ。

副市長 所有者の方々と、円満な解決に向けての努力はしていきたい。

備中町西山のピースワンコ・ジャパンの施設について

森上 ピースワンコ・ジャパンの施設に対して、管理上の問題点が指摘されているが、高梁の施設では、問題が起る恐れはないのか。

市民生活部長 施設を視察したが、問題は見受けられなかった。

森上 再度、実態の調査をしてほしい。

市民生活部長 今後も、市としては施設に注視していきたい。



議員が聞きます、市政の疑問点

一般質問

6月議会の一般質問では、18名の議員のうち10名が執行部に対して質問しました。本年3月に「高梁市復興計画」が策定されたのをうけて、今後計画をどのように実現させていくのかという観点からの質問、また、ダムの事前放流、防災ラジオ、ため池管理、災害時の職員体制等、多くの議員が防災対策について取り上げました。また、社会的に問題になっている子どもたちの通学通園や園外保育での安全性の確保、児童虐待、若者から中高年層にまでひろがっているいわゆる「ひきこもり」など、生活を取り巻く問題についても質問しました。

災害に迅速に対応するためにも、市職員は市内在住が望ましいのでは

答弁：職員に対して市内居住は強く要請をしていきたい。ぜひ応援をお願いしたい



森 和之 議員

ここをききました

- ・ダムの前放流について
- ・災害時における市職員の対応について
- ・国際交流員の活動について
- ・備中松山城における救急搬送について
- ・ご当地マンホールについて
- ・ヒルクライムチャレンジシリーズ高梁吹屋ふるさと村大会について

ダムの前放流について

森 新成羽川ダムの事前放流の量をもっと増やせないのか。

市長 新成羽川ダムは利水ダムである。発電を止めるわけにはいかない。専門家のシミュレーション等で今回の事前放流の量が決められたのだと思う。私自身これで完璧だとは思っていないが、中国電力が初めて事前放流をする

森 河川のしゅんせつ、堤防の整備を行うとしてもすぐにできるものではない。ダムの連携と事前放流で洪水に対処するのが必要と考える。引き続きダム管理者と協議をしっかりと行って欲しい。

市長 今回で9回目の開催である、10回目までは行うと決定している。11回目以降は、「住民と一緒に作っていく大会」になっていくかどうかが判断される。参加者が増える中で課題もあるが、工夫をしていきたいと思っている。

ヒルクライムチャレンジシリーズ高梁吹屋ふるさと村大会について

森 復興への強い意志を示すため今回の大会に参加する市職員はボランティアが望ましいのではないか。また、いつまで大会を続けるのか。

教育次長 職員は大会を成功させるために業務として携わるため、ボランティアとしては難しい。

市長 今回で9回目の開催である、10回目までは行うと決定している。11回目以降は、「住民と一緒に作っていく大会」になっていくかどうかが判断される。参加者が増える中で課題もあるが、工夫をしていきたいと思っている。

復興計画の地域版を作成すべきではないか

答弁：復興計画の中で、地域のご意見をお伺いする機会を十分に取りたい



伊藤 泰樹 議員

ここをききました

- ・高梁市復興計画について
- ・地域を探求する地域学の推進について
- ・高梁市医療計画について

高梁市復興計画について

伊藤 復興計画及び実施計画の進捗管理は。

市長 上・下半期という形で、常にチェックなり状況を把握する。

伊藤 玉川地域市民センターの移転事業はいつごろになるのか。

市長 今年、来年の調査の中で方向性を出せればと思っている。

伊藤 防災ラジオの電波の届きにくい地域とその対策は。

政策監 現地に向いて電波状況の確認を行い、受信状況の改善の対応をしている。

伊藤 ダムの放流情報を防災ラジオで放送できないか。

政策監 放流警報通知を受け取った後、防災ラジオで知らせる。

伊藤 県防災情報ポータルに、中国電力のダム情報を掲載できないか。

政策監 県に確認して調整を図っていききたい。

地域学の推進について

伊藤 郷土研究の学習を小・中学校で取り組むべきではないか。

教育長 ふるさと学習には取り組んでいるが、より主体的に深く入り込んだ研究になるように指導していきたい。

伊藤 「調べる学習」を夏休み中の課題の選択肢に加える等、必須課題の見直しが必要ではないか。

教育長 ふるさと学習を含めた自由研究にしっかりと取り組んでいくよう指導する。

土砂災害特別警戒区域は市が率先して防災組織の立ち上げをするべきではないか

答弁：組織の立ち上げは地域で対応していただきたいが、職員も一緒になって関わっていききたい



石田 芳生 議員

ここをききました

- ・防災・減災について
- ・児童虐待に関する子どもや保護者の支援体制について

児童虐待に対する市の体制について

石田 全国的に見て児童虐待による死亡例は3歳児までで全体の77%に達する。産前産後、また乳幼児を抱える家庭に対して、どのように対応しているのか。

健康福祉部長 妊娠から子育て期まで切れ目なく支援する制度を設けている。また、こども未来課には要保護児童、要支援児童、特定妊婦への支援を行う「高梁市子どもを守る地域ネットワーク」を立ち上げている。市、教育委員会、児童相談所、備北保健所、警察、司法の関係者で構成されており、情報集約を行い、適切な機関に情報提供等を行っている。

石田 虐待されているかもしれない子供から、本音や本心を引き出すためにどのように対応しているのか。

健康福祉部長 寄り添う姿勢が大切であると考えている。子供たちにとって身近な存在である学校・園や保健師などが情報共有することが大切である。

保育園、幼稚園、こども園の園外活動に対する安全点検を実施すべきではないか

答弁：園外活動の経路については事前に点検して安全確保に努めている



川上 博司 議員

ここをききました

- ・障害者雇用について
- ・交通安全対策について
- ・ひきこもり対策について

障害者就労支援について

川上 障害者就労支援策は福祉課だけで考えるものではない。課を超えて行政全体で考えていくべきではないか。障害者優先調達推進法により物品購入や役務の発注などは積極的に推進していくべきではないか。

市長 障害者優先調達方針を策定して物品調達と役務の発注に取り組んでいる。もっと数を増やせるようにしていきたい。

交通安全対策について

川上 保育園、幼稚園、こども園の園外活動に対する安全点検を実施すべきではないか。

健康福祉部長 園外活動の経路に

川上 自転車通学の安全対策で、落合町阿部地内の国道313号の通学路について、通学の帰り道では国道の川側の方を通るが、路側帯の部分しかなく、車と交錯する危険が非常に大きい。今後、どのように対応していくのか。

産業経済部長 道路改良できるよ



事前放流で災害は防げるのか

答弁：事前放流では全ては防げない



石部 誠 議員

- ・市の防災および復興計画とまちづくりのあり方について
- ・国保税について

高すぎる国保税について

石部 全国知事会が国に国保税引き下げを求めている。市は国保税についてどのように考えるか。

政策監 医療費給付を考えれば高過ぎると思わない。今後も税率は引き上げざるを得ない状況だと考える。

石部 高すぎる国保税の引き下げのため市が公費投入すべきでは。

副市長 一般会計から基準外繰り入れは、基本的に考えていない。

災害の記録と検証について

石部 ダムの事前放流は、1時間程度の避難時間と約20cmの水位低下が見込まれる。それで本当に安心できるのか。

政策監 事前のダム放流により水

害がなくなるわけではない。

石部 サイレンやダム放流量の情報だけでなく、知りたいのは河川の水位上昇ではないのか。

政策監 中電はダム管理をしているが、河川管理はしていないので把握し公表するのは難しい。

石部 災害説明会が未開催の被災地があるが開催が必要では。

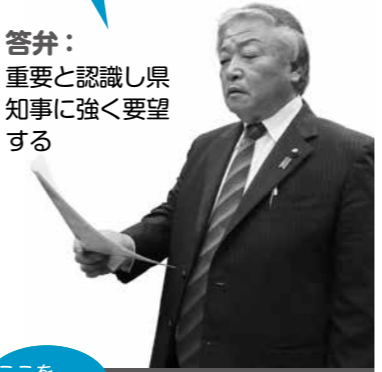
政策監 甚大な被害に遭われた地域説明会は、市から呼びかけをさせていただく所もある。

石部 記録を残すことが大切。市民の声を集めて「豪雨災害調査報告書」を作成し復興計画に生かすべきではないか。

市長 まとめは一応できている。地域で聞いたことを元に復興計画を策定した。

県道新見川上線の早期改良を

答弁：重要と認識し県知事に強く要望する



川上 修一 議員

- ・県道新見川上線について
- ・福祉の村づくり事業について
- ・町内会支援事業について
- ・平成30年豪雨災害について

県道新見川上線について

川上 旧備中町は、昭和47年水害を教訓に県道新見川上線の改良に努めてきたが合併後は止まっているのはなぜか。

市長 県道新見川上線は重要だと認識している。新成羽川ダムの管理のためにも整備を進めるよう県知事に強く要望していく。

布瀬地区にある選果場周辺について

川上 布瀬地区の選果場が被災した状況は把握しているのか。昨年のような豪雨災害が発生したら施設より川の下側にある住宅2軒が被災する恐れがある。どう対応するのか。

産業経済部長 状況は把握している。

盛土の流出箇所は、残土やしゅうんせつ土などを活用し対応する計画である。

災害認定について

川上 昨年の豪雨災害での被災箇所認定は、国は期間を延ばして対応したとあったがいつまでか。

産業経済部長 通常は被災後2ヵ月だが、昨年の豪雨災害では本年の2月1日まで延長された。

川上 認定漏れがあった場合どうするのか。

産業経済部長 多くの被災箇所の調査をして災害申請はできていると認識しているが、漏れているところがあれば現地を確認し必要ないかな対応していきたい。

河川監視カメラの具体的な設置場所は決まっているか

答弁：市内全7カ所に設置する予定である



平松 賢司 議員

- ・高梁市東部地域への消防署分駐所の設置について
- ・河川監視カメラの設置と運用について

高梁市東部地域への消防署分駐所の設置について

平松 東部地域に消防分駐所を設置するということは、いわゆる救急態勢に大きなメリットがあり、分駐所の設置が望まれているが、どう考えるか。

消防長 管内を東西で見た場合に緊急車両の到着に最も時間がかかっていた西地域を解消するため

に西分駐所を設置した。それから現在の職員数、体制を考慮した中で今の配置がバランスが取れた体制として現在に至っており、東分駐所の設置は考えていない。万が一の場合は近隣の消防の応援を含めて対応したい。

河川監視カメラの設置と運用について

平松 監視カメラの具体的な設置場所は決まっているのか。

政策監 広瀬、阿部、成羽の水位計が見える位置に設置し、加えて浸水のあった河内谷、川面、小瀬橋、長屋橋の4カ所に設置する。

平松 避難経路などについても監視カメラを増やす予定はないか。

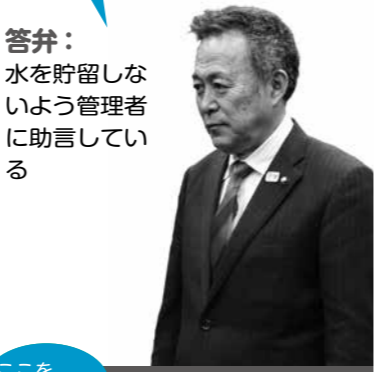
政策監 今後も意見を参考に検討させていきたい。

平松 監視カメラの情報をどのように公開するのか。

政策監 吉備ケーブルテレビで増水時に河川の様子が見えるようにする。市のホームページでも静止画を掲載する。

利用されていないため池の管理はどうなっているのか

答弁：水を貯留しないよう管理者に助言している



三村 靖行 議員

- ・ため池の管理について
- ・通学路の安全対策について
- ・高梁総合文化会館の使用料について

ため池管理について

三村 利用されていないため池の管理はどうしているのか。

産業経済部長 利用していないため池が90カ所あり、水を貯留しないよう管理者に助言等している。

三村 ため池の上流でゲリラ豪雨が発生したら堤防が決壊する恐れがあるが、どう指導しているか。

産業経済部長 大雨が予測される時には事前放流も指導している。

通学路の安全対策について

三村 児童生徒の通学路の危険箇所の把握及び対策は。

教育長 学校や保護者、地域の方と連携して登下校の見守りを行っている。交通安全プログラムを作

成して安全対策に努めている。

三村 通学路に防犯カメラを設置したらどうか。

教育長 防犯カメラは抑止力にもなると思う。町内会支援制度の補助を利用してほしい。

高梁総合文化会館の使用料について

三村 なぜ今年度から童謡まつり参加団体の事前練習の会場使用料が有料になったのか。

教育次長 童謡まつりは、昭和60年から事務局を教育委員会が持つて団体を育成してきた。今年から実行委員会の主導となるため、規定により使用料をいただくことになった。

高梁川水系大規模氾濫時の減災対策協議会の目的は



宮田 好夫議員
ここをききました
・防災・減災について
・旧「ゆ・ら・ら」施設について

防災・減災について

宮田 「高梁川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」の目的と構成団体は。
政策監 この会は、河川が氾濫した時の被害の軽減を目的に、国や県の関係機関と高梁川水系の各市で構成されている。

小規模農地災害について

宮田 小規模な修繕等に補助はできないか。
市長 災害規模が40万円未満のものは国の補助対象にならないので、市としての対応が必要と考える。

防災ラジオについて

宮田 防災ラジオの受け付けはいつまでか。
政策監 今年度の秋に全地域対象に再受け付けを行う。最終は来年度までと考えている。

News

岡山市議会議長会総会を 高梁市で開催



5月23日、県内15市議会の正副議長ら約50人が出席し、岡山市議会議長会総会が高梁市で開催された。
総会では中国市議会議長会総会に提出する議題について話し合われました。なお、決定した議案は次の3件です。
①西日本豪雨災害の復旧・復興支援対策で、堤防の整備や河川の

しゅんせつといった治水対策を推進すること。大雨が予想される際のダムと河川の適切な管理運営について十分な検討を行うこと。被災住宅用地にかかる固定資産税の軽減措置を延長すること。そして仮設住宅から仮設住宅の転居について弾力的な運用を求めることについて国へ要望すること。
②2026年度まで引き続き合併処理浄化槽整備にかかる交付金を継続することについて。
③大規模な太陽光発電に関わる法的規制の整備を求めることについて。

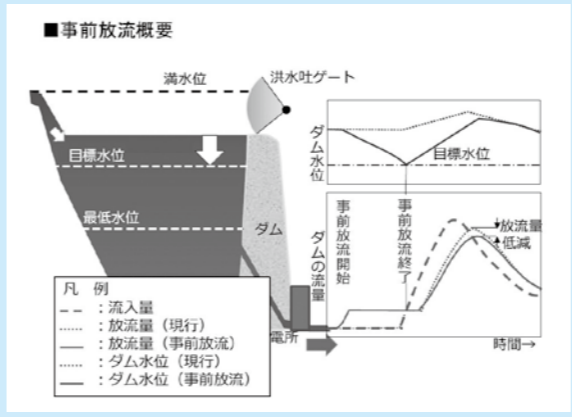
また、各市議会が発行する議会広報誌のコンテストを開催することが提案され、今後検討をしておくことを申し合わせました。今回は玉野市で開催されます。

News

新成羽川ダム事前放流説明会

中国電力の担当者を議会に招いて、事前放流について詳細な説明を受けました

昨年7月の西日本豪雨災害後の検証作業におけるポイントの1つはダム操作に関することです。河本ダムのように岡山県管理下のダムは治水機能を有していることから事前放流を行っていましたが、新成羽川ダムは発電や工業用水確保のための利水ダムであることから事前放流をすることはありませんでした。しかし、新成羽川ダムの貯水量は高梁川水系のダム全体の6割を占めており、事前放流による減災や避難時間の確保ができるのではないかとということから、高梁市を含む高梁川流域自治体4市から中国電力株式会社に対して要望がなされていきました。
今後は気象予測により洪水が予測される場合、1時間以上前に行政機関等へ通知をし、サイレン吹鳴や警告車による巡回警告の後、目標水位まで低下させるために事前放流を行います。しかし、事前放流には限界があり、川の氾濫を防ぐことができるわけではないので自治体からの避難勧告などの指示に従った適切な行動が必要であることなどの説明がありました。
※事前放流により1100万トンの空き容量が確保できます。しかし、昨年の7月豪雨時には新成羽川ダムの有効貯水量の8050万トンの2・3倍の水がダムに流入しました。



HELLO

行政視察受け入れ

5月15日
兵庫県淡路市議会議員（会派）一行6名が行政視察のため来高
視察内容
『豪雨復興の現状について』

5月16日
大阪府茨木市議会総務常任委員会一行7名が行政視察のため来高
視察内容
①防災ラジオ整備事業について
②高梁市の魅力を発信する高梁istについて

5月20日
和歌山県御坊市議会産業厚生常任委員会一行7名が行政視察のため来高
視察内容
『子育て支援の取り組み及び推進について』

9月の定例会スケジュール

9/4	水	本会議（議案の上程）
9/10	火	本会議（一般質問）
9/11	水	本会議（一般質問）
9/12	木	本会議（一般質問）
9/13	金	本会議（議案質疑）
9/17	火	委員会
9/18	水	委員会
9/19	木	委員会
9/25	水	採決

※9月議会への請願のしめ切りは
8月29日までです。

※日程は変更となる場合があります。正式な日程は決まり次第、ホームページでお知らせいたします。

**政治家の寄付は禁止！
有権者が求めることも
禁止されています！**

公職選挙法により、市議会議員が選挙区内でお中元やお歳暮、ご祝儀を出すことは禁止されています。市民から求めることも禁止です。



編集

委員	委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	石田芳生
伊藤泰樹	森和之	森上昌生	石部誠	宮田好夫	川上博司	石井聡美	石田芳生	

議会広報公聴特別委員会



備中宇治彩りの山里リゾート施設

観光や歴史文化の要、移住定住のツールとしても活用



塩田瓦の史料館

平成31年3月議会で宇治の『塩田焼工房』の指定管理について質疑が行われました。『塩田焼工房』は、備中宇治彩りの山里リゾート施設の一つでオープンから20数年が経過しています。当時は農村体験宿泊施設『元仲田邸』を核とし

た農村型リゾート施設の先進地として賑わっていました。現在では、『塩田焼工房』など維持管理と運営費用が必要となる事業は、収益減と担い手不足により活用を休止しています。宇治町『元仲田邸』の内蔵には『塩田瓦の史料館』を設け、製造に関する道具、歴史資料、工芸品物品等を展示しています。吹屋地区の町並みは『塩田瓦』が葺いてあり、街の色彩文化の代表色として観光の魅力にもなっています。工房や史料館そして町並みは、観光や歴史文化の要となり移住定住のツールとしても活用されています。

8月号の表紙について

今回の表紙は、落合町阿部地区にある陸間（りっこ）の操作訓練の様子です。6月15日深夜に近隣住民の見守る中、高梁川の水位が氾濫危険水位に達したとの想定で、国道313号を全面通行止めにし、県・市職員と業者が陸間の閉鎖を行いました。

6月1日・2日夜の準備の様子



6月15日・16日の訓練の様子



編集後記

令和初の議会だよりはどうだったでしょうか。議会広報公聴特別委員会では、議会だよりを、どのようにしたら市民の皆様に関心を持ってもらい、手にとって見ていただけるのかと視察研修などを参考にしながら取り組んでいます。今後も新しい発想で工夫しながら紙面づくりをしていきたいと思ひます。

(川上博司)